



平成19年11月14日

各位

会社名 STEILAR C.K.M株式会社

代表者名 代表取締役 橋本 勝司

(コード番号2673)

問合せ先 取締役(総務担当) 野口 正己

電話 03-5326-8880

特別利益、特別損失の発生及び平成20年3月期中間・通期業績予想の修正 に関するお知らせ

平成20年3月期(平成19年5月15日付の当社「平成19年3月期決算短信」において発表いたしました、平成20年9月中間(平成19年4月1日から平成19年9月30日)及び平成20年3月期(平成19年4月1日から平成20年3月31日)の業績予想(連結)を下記のとおり修正いたします。

記

1. 平成20年3月期中間(個別)業績予想数値の修正(平成19年4月1日から平成19年9月30日まで)

(単位:百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
前回発表予想(A)	3,524	80	81	81
今回修正予想(B)	3,521	228	233	216
増減額(B-A)	△3	148	152	135
増減率(%)	△0.08	185.0	187.6	166.6
前期実績(平成19年3月期中間)	3,144	△115	△62	△163

2. 平成20年3月期中間(連結)業績予想数値の修正(平成19年4月1日から平成19年9月30日まで)

(単位:百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
前回発表予想(A)	3,915	112	106	106
今回修正予想(B)	3,722	205	217	119
増減額(B-A)	△193	93	111	13
増減率(%)	△4.9	83.0	104.7	12.2
前期実績(平成19年3月期中間)	3,302	△124	△135	△147

3. 平成20年3月期通期（連結）業績予想数値の修正（平成19年4月1日から平成20年3月31日まで）

（単位：百万円、％）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想（A）	8,335	514	501	386
今回修正予想（B）	7,500	154	154	72
増減額（B－A）	△835	△360	△347	△314
増減率（％）	△10.0	△70.0	△69.2	△81.3
前期実績（平成19年3月期通期）	7,379	△178	△212	△338

（注）連結対象会社は、株式会社ホット・コミュニケーション（62.5%子会社）、株式会社アंकプロモーション（100%子会社）、株式会社S・Rプロモーション（100%子会社）、株式会社夢隊ファクトリー（100%子会社）、ライフステージ株式会社（100%子会社）、株式会社ソシオ（100%子会社）及び匿名組合1組合であります。

4. 修正の理由

- （1） 中間（個別）業績予想の修正につきましては、まず、中間期においては通販小売事業の売上高は減少となったものの、平成19年9月1日付で当社100%子会社である株式会社クリスタルアースを吸収合併したことにより引き継いだ販売用不動産のうち1棟を販売したこと等により、売上高は35億21百万円（前回予想より0.08%減）となります。また、この不動産販売等により、営業利益2億28百万円（前回予想より185.0%増）、経常利益2億33百万円（前回予想より187.6%増）となります。
- （2） 中間（連結）業績予想の修正につきましては、主に中間（個別）業績予想の修正によるもので、当初子会社クリスタルアースが下半期に予定していた不動産の販売が中間期に早まったことが主要因であります。
- （3） 通期（個別）業績予想につきましては、前述のとおり通販小売事業の売上高が減少しているものの不動産の販売による売上高及び営業利益の増加を見込んでおります。なお、通販小売事業の業績回復のために、中間期における利益の一部を販売促進費として積極的に投入する所存であるため、期首の予定通りとさせていただきます。
- （4） 通期（連結）業績予想の修正につきましては、個別業績のうち通販小売事業において、下半期に販売促進費を投入し業績の改善を図りますが、売上高の減少の影響が大きいこと、下半期に予定していた不動産の販売が来期にずれ込むため期首の予想数値には未達が予想されるためであります。

（参考資料）

平成20年3月期通期個別（平成19年4月1日から平成20年3月31日）業績予想数値

（平成19年5月15日発表）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
通期個別業績予想	7,161	154	156	156

5. 特別利益について

当中間期において特別利益 13 百万円を計上しております。理由は投資有価証券の売却益であります。

6. 特別損失について

当中間期において特別損失 83 百万円を計上しております。主な理由は貸倒引当金の繰り入れを 60 百万円計上しており、その内訳は売却した販売用不動産における未回収家賃に対する引き当てが 17 百万円、映画制作会社他への貸付金に対する引き当てが 43 百万円であります。また、借入金の繰上げ返済に伴う金利スワップ解約損として 10 百万円を計上しております。

以上